

住まい部会 活動報告書

令和6年3月11日

住まい部会 部会長

社会福祉法人 武蔵野千川福祉会 佐藤資子

1. 活動名

「地域における一人暮らし・賃貸・情報の活用」

2. 活動目的・背景

武蔵野市地域自立支援協議会テーマとして、「障害のある人が地域で暮らす権利を護るために、当事者と共に武蔵野市の地域課題に取り組む」ことが掲げられている。

このことを受け、「前期部会活動で挙げられた住まいに関する課題に加えて、実際に生じている住まいをめぐる多様な課題を整理してまとめる。」「近隣地区での取り組み例などを調査し参考例を示す」ことが、住まい部会のミッションとなっている。

3. 構成メンバー

【親会委員】佐藤・立野・長谷川

【委員】土井・伊藤・飯吉・若林・小澤・坂井・仲井・柳井・田中・安東・松沢・島田
(敬称略・順不同)

4. 実施内容

第1回(2024.08.31):協議会テーマと住まい部会のミッションの確認
地域課題に対する意見交換

第2回(2024.09.19):地域課題の整理、制度や資源の可視化について

第3回(2024.10.26):一人暮らし・賃貸・不動産情報の活用方法等を住まい部のミ
ッションとする
武蔵野市あんしん住まい推進事業との連携模索

第4回(2024.12.07):武蔵野市あんしん住まい推進事業との連携模索のための方向
性を討議

第5回(2025.01.25):住宅対策課柴田様(武蔵野市あんしん住まい推進事業)との
意見交換会

5. 成果

まず、武蔵野市地域自立支援協議会テーマである、「障害のある人が地域で暮らす権利を護るために、当事者と共に武蔵野市の地域課題に取り組む」点に関して、当事者と委員の間で意見交換を活発に行い、様々な課題を挙げた。

例として、グループホームは通過点であり、一人暮らしがしたいという人もいれば、重度の知的障害者にとってのグループホームは通過施設ではない。

ライフステージによって自立生活のやり方の希望は変わってくる。若い人なら通過型グループホームを経て一人暮らしにステップアップがいいかもしれないが、ある程度年を重ねてくると、何かあった時のために見守ってくれる人が近くにいてくれる方がいい場合もある。いろいろな形で自立生活ができるのがいい。等の意見が挙がった。

このように、「地域で暮らす」とは多種多様であり、選択肢や方法も多様でなければいけない。そのため、住まい部会として、どの課題に焦点をあてるのかを一番議論した部分である。

武蔵野市障害者計画・第7期障害福祉計画中間まとめ「住宅に関する取り組み」の中で「住宅の整備」「住宅探しの支援」という項目と、「武蔵野市あんしん住まい推進事業」の記述もあるため、武蔵野市住宅対策課とも意見交換会を行い、「地域における一人暮らし・賃貸・情報の活用」を、住まい部会のミッションとして活動を進めた。

6. 所感

暮らし方が多種多様であるのと同時に、障害種別やライフステージによっても暮らす課題が異なる。今回の住まい部会では、「地域における一人暮らし・賃貸・情報の活用」に焦点をあてて進めていくが、障害種別やライフステージに関わらず、誰もが少しでも参考になる取り組みが行えるようにしていきたい。障害のある方の暮らし方が広がり、多様な選択肢の中から選べるように制度を整えていくことが大事である。そのためのきっかけ作りとして、地域自立支援協議会を活用し取り組んでいく。

7. 今後の予定

地域における一人暮らしの実態・課題について調査
賃貸等の不動産情報の活用について
制度や情報の集約と可視化

以上